

# 令和7年度 凰至・河原田・三井・鶴巣小学校 前期 学力向上プラン

年間のゴールの姿

自らの目標に向かって学びを進める輪島っ子

## 1 授業づくり

### (1) 現状と課題 (R)

児童生徒の課題	現状と要因・根拠となるデータ
進んで学びを深め、考えを表現し伝える力が弱い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見取りと支援の重要性を共通理解し、取り組むことができた。</li> <li>○児童は自己選択できるようになり、選んだことに対して意欲的に取り組むようになった。</li> <li>▲ねらい達成にむけた自己決定の場を提供できていない。また、児童も問題解決のためのより良い決定ができておらず、考えを伝え合えていない。</li> <li>▲授業セルフチェックのねらい達成率は8割を超えており、単元末・学年末テストの期待平均値を超える児童の割合は8割以下であり、定着に結びついていない。→教師が学習の流れや活動を決めていたため、児童が自己決定する場面がなく、意欲的に取り組めない。</li> </ul> <p>[根拠となるデータ]</p> <p>R6 県評価問題 算4（2） 正答率 35% 誤答率 28.5% 無回答率 36.5%</p> <p>※多角形の角の数と角の大きさの和が比例の関係になっていないことを説明する</p> <p>R6 県評価問題 国1三 正答率 9.8% 誤答率 87% 無回答率 3.2%</p> <p>※話し合いの様子の一部をもとに、合宿の目当てと目当てを守るためにすることをまとめて記述する</p>

### (2) 計画と実行 (P・D)

具体的な取組	評価項目	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・輪島っ子スタンダード授業スタイルを基にした授業実践を行い、自己決定の場を設定する。</li> <li>・児童のつまずきの例とそれに対する支援を用意して授業に臨む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果検証「自己決定し、取り組んでいる」(児童) 80%</li> <li>・実施検証①「自己決定の場を設定した」 100%</li> <li>    ②「児童の誤答例と支援を事前に用意し、授業中見取りと支援を行った」 100%</li> <li>・研究授業「ねらいを達成している」 80%</li> <li>・診断テスト「単元末テスト」期待平均値以上を超えた割合 75%</li> </ul>	

### (3) 検証と改善 (C・A)

月	評価項目（誰が、いつ）	結果	取組の成果○・課題▲
4	<input type="checkbox"/> 児童アンケート（学担 月末） <input type="checkbox"/> 職員アンケート（学担・級外 月末） ①「自己決定」 ②「見取りと支援」	○89.5% ▲72.3% ▲80.3%	○児童は、設定された自己決定の場において、自ら選んで取り組むことができている。 ▲「ねらいを達成するための自己決定」「見取りと支援」とは、どのようなものかという共有が不十分。
5	<input type="checkbox"/> 児童アンケート（学担 月末） <input type="checkbox"/> 職員アンケート（学担・級外 月末） ①「自己決定」 ②「見取りと支援」 <input type="checkbox"/> 客観的評価テスト（適時）期待平均値以上 <input type="checkbox"/> 検証シート（谷口・和田教諭授業）	○89.3% ▲75% ▲85% ▲74.7% ▲75.5%	○「見取りと支援」の方法をミニ研修で確認したこと、日々の授業で意識することができるようになってきた。 ▲単元のどこで、どのような自己決定を入れたらよいか、自己決定についての理解が不十分である。ミニ研修の中で自己決定を取り入れることの難しさを出し合い、改善策を考えていく。
6	<input type="checkbox"/> 児童アンケート（学担 月末） <input type="checkbox"/> 職員アンケート（学担・級外 月末） ①「自己決定」 ②「見取りと支援」 <input type="checkbox"/> 客観的評価テスト（適時）期待平均値以上 <input type="checkbox"/> 計画訪問（井上・小山教諭）	% % % % %	
7	<input type="checkbox"/> 児童アンケート（学担 月末） <input type="checkbox"/> 職員アンケート（学担・級外 月末） ①「自己決定」 ②「見取りと支援」 <input type="checkbox"/> 客観的評価テスト（適時）期待平均値以上	% % % %	

### 前期（I期）取組の成果○・課題▲

## 2 基盤づくり

目標	具体的な取組	評価
能動的に話を聴き、それに対する自分の考えを伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然な反応をしながら聴いている児童を評価し、価値付けていく。</li> <li>・考えを交流することの良さや見本となる姿を具体的に示したり、考えを積極的に話している児童を評価したりして価値付けていく。</li> </ul> <p>※目標値肯定評価80%。児童のふりかえり調査から検証。</p>	

